

2010

学校法人 四條畷学園
平成22年度 事業報告書

Ver. 1.2

目 次

1. 法人の概要	1
教育理念	
沿革	
設置する学校・学部・学科等	
学校法人の組織構成図	
学校・学部・学科等の入学定員、学生・生徒・児童・園児数の概要	
役員・教職員の概要	
(1) 理事会 (2) 評議員会 (3) 教職員数	
2. 事業の概要	
法人	9
大学	10
短期大学	12
高等学校	14
中学校	16
小学校	20
幼稚園	22
3. 平成22年度決算の概要	23
消費収入について	
消費支出について	

1. 法人の概要

■教育理念

本学園は、大正15年、牧田宗太郎（当時四條畷中学校校長）と牧田環（当時三井合名重役・工学博士）の兄弟が、亡き母に対する報恩感謝の念をあらわすために四條畷高等女学校を設立したことに始まります。

宗太郎・環の母 栄子は、収入が途絶えがちになった牧田家を自ら働くことによって支える一方、教育への篤い信念を持ち続け、七人のわが子の教育に健闘苦勞を惜しまない女性でした。栄子は窮迫の中で大阪の女学校や小学校の裁縫教師となって家計を助け、三人の息子と四人の娘たちには次のように語って、学ぶことの大切さを教えたといわれています。「将来の日本はますます文明開化に向かうことであらう、その中に処して身を立てるには是非学問が無くてはならぬ、それには小学校や中学校位では所詮役立つものではない」と。

この母の偉大さに感謝していた兄弟は、母の恩に報いるためにはどのような道が最上であるかを熟慮しました。二人は、「“子どもたちを本当に立派な人として育てることのできる力”を備えた女性を社会に送り出すこと。」、これこそが亡き母のもっとも喜ばれることだと思い定め、亡き母の慈愛と教育への篤い信念に報いるため、「報恩感謝」を建学の精神として四條畷高等女学校を設立し、女子教育にあたることになりました。

宗太郎・環兄弟が四條畷高等女学校を創設してから八十有余年、四條畷学園は幼稚園から四年制大学までを擁する総合学園となりましたが、この建学の精神は脈々として受け継がれ、各校園の教育理念ともなっています。

○ 建学の精神 『報恩感謝』

○ 教育の目標 『尊敬される人間』の育成



■沿革

大正 1 5 (1926) 年 4 月 四條畷学園高等女学校開校 (古川橋)



昭和 4 (1929) 年 6 月 本館竣工



昭和 1 1 (1936) 年 1 0 月 創立 1 0 周年記念祝賀会

昭和 1 6 (1941) 年 4 月 幼稚園開園

昭和 2 2 (1947) 年 4 月 中学校開校

昭和 2 3 (1948) 年 4 月 高等学校 (新制) 開校

小学校開校

昭和 3 9 (1964) 年 4 月 短期大学開学 (家政科)

昭和 4 2 (1967) 年 2 月 創立 4 0 周年記念 新体育館兼講堂竣工

昭和 4 7 (1972) 年 4 月 家政科を児童教育学科に転科

昭和 5 1 (1976) 年 1 1 月 創立 5 0 周年記念式典挙行

平成 元 (1989) 年 短期大学教養学科開設

平成 3 (1991) 年 臨床心理研究所 (ICP) 設置

- | | |
|----------------|--|
| 平成 8 (1996) 年 | 創立 70 周年記念行事挙行 |
| 平成 12 (2000) 年 | 短期大学国際コミュニケーション学科開設 |
| 平成 13 (2001) 年 | 短期大学リハビリテーション学科開設 |
| 平成 16 (2004) 年 | 短期大学ライフデザイン総合学科開設

同教養学科・国際コミュニケーション学科廃止

リハビリテーション総合研究所設置 |
| 平成 17 (2005) 年 | 大学開学 |
| 平成 18 (2006) 年 | 創立 80 周年記念行事挙行

短期大学清風学舎竣工 |
| |  |
| 平成 19 (2007) 年 | 短期大学介護福祉学科開設 |
| 平成 21 (2009) 年 | 短期大学リハビリテーション学科廃止 |
| 平成 22 (2010) 年 | 中学校 6 年コース新設
全学同窓会事務局設置・同ホームページ開設
総合ホール エレベーター設置・入口リニューアル |
| |  |
| 平成 23 (2011) 年 | 全学同窓会誌「若楠会報」発行 |

■設置する学校・学部・学科等

(1) 四條畷学園大学 学長：河井 秀夫
 学部 リハビリテーション学部
 学科 リハビリテーション学科

(2) 四條畷学園短期大学 学長：河井 秀夫
 学科 保育学科
 ライフデザイン総合学科
 介護福祉学科

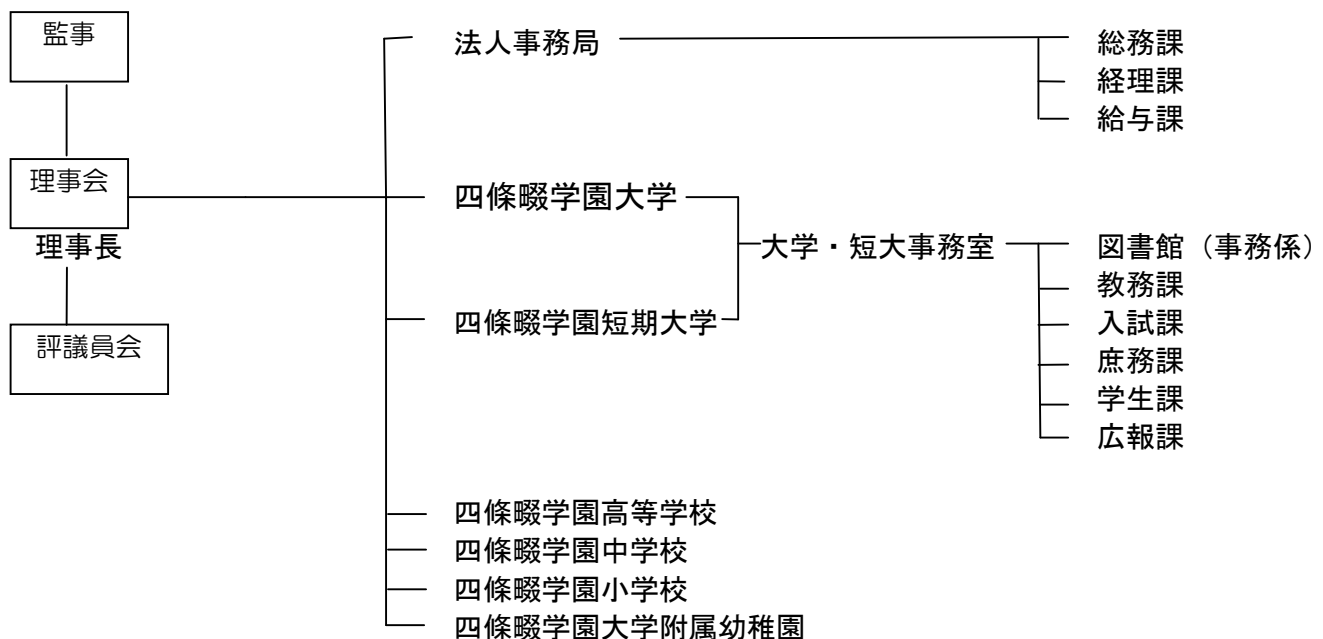
(3) 四條畷学園高等学校 校長：高山 光夫

(4) 四條畷学園中学校 校長：梶尾 晃

(5) 四條畷学園小学校 校長：北田 和之

(6) 四條畷学園大学附属幼稚園 園長：中西 邦枝

■学校法人の組織構成図（平成 22 年 5 月 1 日）



■学校・学部・学科等の入学定員

学生・生徒・児童・園児数の概要（平成22年5月1日現在）

校 園	学部・学科名等	定 員		現 員						合 計		
		入学 定員	収容 定員	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	22 年度	21 年度	前年比 増減
大 学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	40	160	44	53	39	48			184	177	7
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻	40	160	26	14	29	44			113	124	▲11
	合 計	80	320	70	67	68	92			297	301	▲4
短期大学	保育学科	100	200	85	99					184	192	▲8
	ライフデザイン 総合学科	100	200	107	110					217	203	14
	介護福祉学科	40	90	33	15					48	43	5
	合 計	240	490	225	224					449	438	11
高等学校	—	375	1,290	442	440	446				1328	1,304	24
中学校	—	170	600	171	183	175				529	534	▲5
小学校	—	90	648	99	99	96	99	99	97	589	591	▲2
幼稚園	—	140	405	134	140	120				394	409	▲15
合 計		1,095	3,753	1,141	1,153	905	191	99	97	3,586	3,577	9

■役員・教職員の概要（平成 22 年度内異動を含む）

（１）理事会

■理事 定員：6人以上9人以内 現員：8人うち外部理事（*）：2人

理事長	川崎	博司	
理事	清澤	悟	*
理事	伊泊	規子	*
理事	河井	秀夫	
理事	石村	哲代	
理事	梶尾	晃	
理事	牧田	朝美	
理事	木寅	文雄	

■監事 定員：2人 現員：2人

監事	田中	脩雄	
監事	廣岡	英雄	（～22年5月）
監事	佐藤	多加志	（22年6月～）

（２）評議員会

■評議員 定員：13人以上32人以下 現員：26人

第1号評議員：2人（1人以上3人以内）（法人職員）

尾村 和彦、中橋 健司

第2号評議員：2人（1人以上3人以内）（卒業生）

牧田 朝美、大西 寛治

第3号評議員：21人（10人以上25人以内）（学識経験者）

清澤 悟、伊泊 規子、三村 龍三、西尾 信夫、
 佐藤 多加志（～22年5月）、繁原 秀孝、横田 将憲、辻 一郎、
 米原 信夫、山内 康俊、小南 市雄、植田 恭平、河井 秀夫、
 森永 敏博、石村 哲代、高山 光夫、梶尾 晃、北田 和之、
 中西 邦枝、木寅 文雄、日笠 賢、渡邊 忠夫（22年6月～）

第4号評議員：1人（1人）（理事長）

川崎 博司

(3) 教職員数（平成 22 年 5 月 1 日現在）

		教員				職員等					合計
		本務	常勤	嘱託	兼務	本務	嘱託	兼務	理事	監事	
大学		24			18	3	2	5			52
短期大学	保育学科	9			32	4	2	6			53
	ライフデザイン 総合学科	8	1	1	29	2	5	10			53
	介護福祉学科	6			3			2			11
	音楽教室			1	7			3			11
	合計	23	1	2	71	6	7	21			131
高等学校		51	5	7	43	1	5	20			132
中学校		29	9	1	10			1			50
小学校		26	5	1	5		1	4			42
幼稚園		16		3	1		1	22			43
法人本部						10		1			11
学外理事等									2	2	4
合計		169	20	14	148	20	16	74	2	2	465

2. 事業の概要

当年度に実施した主な事業

法人

(1) 財務基盤の強化

①在籍者数増加への取組み

幼稚園から大学まで各校園において志願者数、入学者数の増加に努めたことにより、志願者数は若干減少しましたが、入学者数が増加し、学園全体としては在籍者数が増加しました。

②収益事業の収益増加への取組

音楽教室、水泳教室、幼稚園・小学校の課外教室の収益事業に積極的に取り組み受講者数が増加したことにより収益事業の収入が増加しました。

③経費削減の推進

広報費、IT関連の保守費、水光熱費等の経費の圧縮に努めた結果、経費が減少しました。

(2) 内部統制の確立とスクールガバナンスの強化

①情報公開の推進

財務情報、学校評価等必要な情報をホームページ上に公開し学校経営、教育内容の透明性の確保に努めました。

②規程管理システムの活用

導入2年目となる規程管理システムを一層活用し、規程・細則を充実させ、教職員全員が最新の規程・細則を常時利用して業務を遂行できるようにしました。これにより、各種業務の手続き、内容について必要な品質を確保できました。

③支払等手続きのシステム化と予算管理

22年度、各種費用、手当等の支払手続きをワークフロー化するシステムを導入し、23年度より支払手続きの進捗、予算の消化状況等が即座に把握できる環境を整えました。23年度期初より実運用を開始しました。

(3) 各校園との連携強化

校園長会議、教頭会議、各種連絡会議等の校園横断的な会議を通して、各層別等校園間の連携を密にし、連携を強化しています。

(4) セキュリティ対策の推進（安全安心への取組）

①IDカードの発行

教職員、生徒・学生全員、来訪頻度の高い外来者等（幼稚園・小学校の保護者、理事会等外部役員、出入業者）にIDカードを発行しました。特に、幼稚園、小学校では安全対策をより強化する観点からすべての保護者を対象に発行しました。

また、教職員や外来者等は学園内では常時身に付けるルールとしました。

②機械警備の導入

大学、短期大学北条学舎について警備保障会社と契約し機械警備を導入しました。これにより夜間・休日においても学園町学舎・校舎と同等の警備水準となりました。

(5) 学生満足度の向上

学生等の満足度を向上させるため以下の工事を実施しました。

①総合ホールの改修

総合ホールにユニバーサルデザインのエレベーターを設置するとともに、エントランスを改修・増築しました。

②短期大学北条学舎の改修

外壁等の改修工事を実施しました。

③パソコン教室の機器更改

短期大学清風学舎、高等学校のパソコン教室の計3教室の機器をすべてWindows 7の機器に更改しました。また、Office も最新の 2010 を導入しました。

④高等学校本館・同増築部分のリニューアル

主に2階部分の教室、廊下を全面リニューアルしました。

⑤高等学校東館の空調更改等

高校東館の空調を全て最新機器に更改しました。また、東館の一部の教室についてリニューアルを実施しました。

(6) 同窓会活動への支援

①同窓会名簿の作成

創立85周年に向け同窓会名簿の作成に着手しました。発行は23年6月頃を予定しています。

②ホームページの開設

同窓会のホームページを開設しました。

URL http://www.dosokai.ne.jp/shi_jonawate-gakuen/

③成人式の開催

平成23年1月10日に成人式を迎えた四條畷学園中学校の第59回卒業生124名が、短期大学清風学舎6階記念ホールに集まり『母校で成人を祝おう会!』を開催しました。

④同窓会誌の発行

同窓会誌として21年度をもって休刊した「くすのき」に替わる「若楠会報」を新たに発行する準備に着手しました。22年度中に企画・製作し、23年4月に発行しました。

大学

(1) 認証評価受審

①学内の自己点検・自己評価委員会において、基準11項目について担当者を割当て、自己評価報告書作成に向けて鋭意活動を展開し、平成22年6月に日本高等教育評価機構に提出しました。

②平成22年12月に5人の評価委員による実地調査を受け、平成23年3月に評価報告書を受領しましたが、審査基準である11項目のうち、2項目で基準未達成との評価があり、総合評価は「保留」となりました。平成24年度に基準未達成の2項目に関して再度申請する予定です。

(2) 学生募集

ここ数年続いている定員（80名）未達を避けるべく、以下の施策を中心に積極的に募集活動を展開した結果、理学療法学専攻47名、作業療法学専攻42名 合計89名の新生が入学しました。

- ①学園高校との連携を強化し、高校3年生の担任向け説明会及び生徒・保護者向けの説明会を開催するなどして15名が入学しました。（前年度8名）
- ②学園高校以外の高校に対しては、受験データをもとに指定校の見直しを行ないました。特に作業療法学専攻では、指定校数をほぼ倍増して近隣地区を中心に、効果的な高校訪問を実施しました。
また、指定校推薦における評定平均値の基準を見直し、志願者数の増加を図りました。
- ③入試要項の見直しを行い、受験生の多様な要望を満足するためAO入試を採り入れ、当年度より実施しました。加えて公募推薦入試では、2日間の受験日を設定するなど入試機会の拡大を図り、受験生の増加に努めました。
- ④宮川花子氏の講演（テーマ：リハビリ体験談）を主体とする特別オープンキャンパスを開催するなど、オープンキャンパスの回数やプログラム内容を見直し、見学者の増加に努めました。
- ⑤吉本興業と連携して作業療法学専攻で特別講義として「笑い学」を開催するなど、学生に関心のある講義を企画し実施しました。
- ⑥学舎内での土足解禁や、一定要件を充たせば、学園町までのバイク通学を許可するなど学生の利便性向上を図りました。
- ⑦学舎近辺での案内版を4箇所設置し、オープンキャンパス参加者等に対する利便性向上を図りました。
- ⑧平成24年度入学者を対象として、センター入試（大阪産業大学との共同入試）を実施することを検討し実施を決定いたしました。

(3) 新入学生の基礎学力向上

- ①平成22年4月には、東京アカデミーと提携し「リメディアル教育」として物理・数学・生物の入門講座を開講しました。その後、修了試験結果により補修授業も実施し、基礎学力向上に努めました。
- ②専門科目と一般教養科目との連携を深める目的で、講師会を開催しました。
- ③AO入試合格者等を対象にして、入学前教育として、4回の特別講義を行ないました。

(4) 留年・中途退学への対応

- ①「臨床実習」での成績向上を目的に、親密実習施設と連携し事前に実習訓練を行いました。
- ②大学同窓会組織との連携を密にして、卒業生・同窓生の勤務先での見学・実習等の機会増加に努めました。
- ③カリキュラム内容の充実を目的に、昨年10月に文部科学省にカリキュラム変更に関する申請を行ない、今年2月に認可されました。新カリキュラムは平成23年度入学者から適用になります。

(5) 過年度卒業生への支援

国家試験の不合格者を対象として、研修生制度を検討しました。23年度より実施する予定です。

■短期大学

（１）新企画への取り組みについて

①「保育総合表現研究所」設立への取り組み

平成２０年、「短期大学の活性化に関する事業計画」の一つとして提案された「保育総合研究所設立構想」（株式会社アイエスエイ 学校経営コンサルティング部）を、短期大学における将来計画の一環として視野に入れ、前年度に引き続き教員自身の教育・研究活動のさらなる活性化を図りました。その研究成果を保育や教育の現場及び地域に還元することを目的とした研究及び地域支援活動を展開しました（市民対象グリームコンサート、演奏会、保育所への出前保育、現場の保育者対象の講演会など）。

将来的には、こうした活動の一層の活性化を図り、現場の保育者はもとより、地域の保護者や子ども、卒業生などをも支援できる体制を整えた研究所設立を目指します。しかし、この構想は、あくまでも四條畷学園の全体構想の中に位置づけられて初めて実現するものであり、設立に値すると判断できるような「目的・内容」についてのさらなる検討をはじめ、全教員個々の教育・研究活動、及び社会的活動の向上に努めていきます。

②保育・教育界の有名、実力者招聘による教育内容の充実、レベルアップについて

当初の事業計画どおり、保育・教育界の「カリスマ」といわれる、シンガーソング絵本ライターの中川ひろたか氏を客員教授として本学保育学科へ招聘し、年間３回の講演、講義等を実施しました。講演、講義の受講者は、本学保育学科学生、学園高校保育コース生徒および本学近隣の幼稚園、保育園の先生方（受講者人数合計延べ約７００名）などと多岐にわたり、受講した多くの先生方や学生、生徒などに好評を博しました。

なお、中川ひろたか氏は、平成２３年度以降も本学園短期大学の客員教授として、引き続きご指導を頂けることとなり、保育学科の更なるレベルアップに貢献頂けるものと考えています。

③「公務員試験受験対策講座」の開講について

当初の事業計画どおり、平成２２年８月、平成２３年２月の２回（各講座とも５日間１日３コマの集中講座）開講しました。いずれの講座にも多忙な中、２０名～３０名の学生が出席し、講義や公務員試験に臨むに際しての注意事項等に熱心に聞き入っていました。また、当講座は、一般企業の入社試験対策としても有益なものであり、一般企業への就職を目指す学生の参加も目立ちました。

（２）組織の活性化について

①風通しのよい組織作りについて

従来から、短期大学専任教員相互間の連携、情報交換等は活発に行われてはいたが、平成２２年度については、前年度に引き続きさらに「各学科間の縦割り組織の弊害」を除去するため、学長、事務長を中心とする各学科から選抜した９名の構成メンバーによる活性化委員会をはじめ、学科長会議、各学科教員会議の回数を増やし、短期大学の存続、活性化を目的とする学生募集活動、学科毎の将来計画などに対する意見交換を活発に行いました。以下に述べるオープンキャンパスでの有名人招聘企画、本学のロゴマーク入りノベルティグッズの考案、ホームページの改定等は、活性化委員会で立案後、学科長会議、教授会の承認を経て実施されたもので、こうした学科の枠を超えた議論が十分に尽くされた結果、各学科間、各校務分掌担当委員間、事務室との連携がスムーズに進行、年間を通じての様々な重要行事が円滑に遂行されました。

②「FD (Faculty Development)」について

☆年度事業計画に従い、以下の通り実施しました。

I. 当初計画どおり「学生による授業評価（個別の授業の調査）」を試行的に再開しました。

23年度からは新しい方式でのアンケート調査を正式に開始します。

II. 「教員相互による公開授業参観」についても計画どおり22年度後期から再開しました。なお、「公開授業参観」については、その報告書の一部を本学 Web 上で公開しました。

III. 「学生の授業に対する満足度調査」について

当初の計画どおり、平成23年1月～2月に実施しました。この調査は、短大における全体的な授業についての満足度を調査するもので、調査結果は、小冊子「授業についての満足度調査」を発行し学内向けに公表しました。本調査は、Web サイトを利用し、パソコン、携帯端末から実施しました。

(3) 学生の就職活動支援について（目標就職内定率 保育および介護 100% ライフ 90%以上）

保育学科、介護福祉学科については、100%には届かないものの、それぞれ99%、93%と初期の目標はほぼ達成できたものと考えます。ライフデザイン総合学科については、一般企業への就職を希望する学生が多い中であって、昨今の長期にわたる日本経済の低迷に伴う新卒学生募集減少の影響は大きく、就職希望者の内定率は83%に止まりました。

来年度以降、特にライフデザイン総合学科学生の就職支援については、従来以上にきめ細かく、かつ実効性のある手法の取入れなど、特に注力して取り組みます。

(4) 学生募集について

①定員充足率

入学定員240名に対し、入学者211名と定員充足率は88%でした。

これは、保育学科およびライフデザイン総合学科は、定員充足率が90%以上と、在阪の他の短期大学の定員充足率を上回り、まずまずの結果であったと判断できるものの、介護福祉学科への入学学生が21名と入学定員40名の50%程度に止まったことが大きな要因といえます。

このため、介護福祉学科は平成24年度から、『ライフデザイン総合学科「総合福祉コース」』に改組し、募集定員も1学年25名（現在より15名減）として再スタートを切ることになりました。従いまして、短期大学としては総力を挙げ、平成23年度の「総合福祉コース」の学生募集に取り組みます。

②学生募集における高校短大連携活動（学園高校との高短連携）について

* 内部入試の実施回数増加について

学園高校より短期大学への内部進学者数をより一層増加させるため、従来は1回であった学園高校内部入試を平成22年度より2回実施することにしました。その結果、内部進学者数は前年度比13名増（前年度93名）の106名となり、実施回数増加の効果が現れました。

* 平成23年度の短期大学入学生総数211名のうち、学園高校出身者は106名と50%を越えました。

入学者数としては、当初目標とした120名には届かなかったものの、短期大学入学者総数の半数を上回る学生が内部からの進学でした。今後も、学園高校の担当教員とは綿密な打合せや情報交換等を行い、短大への内部進学者数の増加に努めていきます。短期大学としても、学園高校生向けの各学科説明会の開催、受験しやすい入試日程の設定、学園高校保育コースの運営支援、さらには学園高校での短大模擬授業の実施など、あら

ゆるサポート、支援を行っていきたいと考えています。

③専任教員による高校訪問、入試説明会、オープンキャンパスの活発、活性化等と外部高校等からの入学学生人数について

短大専任教員による、指定校をはじめとする近隣親密高校の訪問数は目標とした100校を超えました。また、「ホテルグランヴィア」での進路担当教員への説明会も予定通り開催し、本学の積極的な広報活動に努めました。

また、従来よりオープンキャンパス参加者の入学率が圧倒的に高いという傾向があり、例年参加者が多く見込まれる7月～8月の3回、「美しくなりたいあなたに贈る」というシリーズで、ウォーキングドクターのデューク更家氏、毎日放送（MBS）アナウンサーの八木早希氏、歌舞伎俳優の中村壺太郎氏による特別講演会を開催しました。また保育学科志望者の志望先決定が年々早期化していることから、年度末の3月、高校2年生（新3年生）対象のミニオープンキャンパスを開催、テーブルコーディネート模擬授業やティーとクッキーのおもてなし、少年・少女合唱団の歌声披露などを行い、好評を博しました。

さらに昨年に引き続き、本学のロゴマーク入りクーラーポーチやバームクーヘンなどのノベルティグッズも好評でした。こうした絶えまない努力もあり、開催したオープンキャンパスへの高校生、社会人等の出席者総数は、当初目標としていた400名を上回りました。

しかしながら、外部の親密高校等からの本学園への入学者数は、105名であり、年度事業計画での目標人数を下回りました。来年度以降、外部高校からの入学生をいかにして増加させるかが、短期大学に与えられた大きな課題です。

④ホームページの改定について

当初の事業計画どおり、ホームページの全面改訂を行いました。新ホームページは、「受験生の方へ」「保護者の方へ」「在校生の方へ」「卒業生の方へ」および「採用担当者の方へ」というようなバナーを新しく設け、従来以上に内容を充実し、アクセスして頂いた方々には、「もっと見てみよう」という気持ちになるような、よりカラフルな明るい基本構成としました。短期大学としては、是非とも、より多くの皆様にご覧頂きたいと考えています。

⑤「在学生の活用による本学のPR」および「マスコミの積極的な活用（パブリシティ広告等）」について

現状、十分には実施はできていません。今後、実施に向け具体策を検討していく予定です。

■高等学校

大阪府の高等学校は、私立も公立も各学校が互いに切磋琢磨しつつ、それぞれの教育の特色を強化し、生徒・保護者に評価され選択される学校になろうと努力しています。学校をとりまくこのような厳しい環境のなか、四條畷学園高校が地域の中学校から高く評価され選ばれる学校になるために、建学の精神や教育方針を根幹にすえつつ、この一年間、本校の教育目標を明確に打ち出し、教育の特色を一層強化し、生徒を着実に成長させる教育活動を展開してきました。

（１）特進コースの強化

①教科の指導計画・シラバス・学力到達目標の立案・作成と実施

各学年各教科の指導については、個々の担当教員が指導計画・シラバスを作成して意欲をもって指導にあたり、学力向上にも成果をあげています。さらに教科の統一的



な指導計画の完成に向けて取り組んでいます。一貫した教科指導・学習システムの構築と一層の学力向上の実現が今後の課題であると考えています。

②効果的な講習体制の確立と学力の向上

進学講習体制は整備され、専任教員と外部講師を組み合わせることで効果的な指導を行いました。特に第3学年の3学期は、大学入試直前の進学指導体制を新たに構築して充実した受験対策を講じました。また、図書室内に設けた放課後の自習室も有効に活用される体制を整備しました。

(2) 総合コースの強化

①基本的な学習態度の習得と基礎学力の定着

学年および教科による指導を通して基本的な学習態度を習得させ、基礎学力もある程度定着させることができました。中学校の基礎・基本が不十分な生徒には授業以外にも放課後の補充指導を行い、定期考査では合格基準点以上を取らせ、各教科の単位を修得させることができました。

分かりやすい授業の実施と放課後の基礎学習のさらなる充実を図っていきたいと考えています。

②基本的生活習慣の習得と実行

学年と生徒指導部が連携して、挨拶の励行や身だしなみの指導、出席指導等をきめ細かく行い、より良い基本的生活習慣をある程度身につけさせることができました。全体の規律と品位の向上および社会性の獲得のためにさらにきめ細かい持続的な指導が必要であると考えています。

(3) 高大・高短の連携強化と内部進学者の拡大

①大学・短大による模擬授業の実施

高大の連携が進み、説明会・見学会や模擬授業などを実施することができました。これらの取り組みによって短期大学への進学者は着実に増加し、大学への関心も高まりつつあります。大学のリハビリテーション学部に対してさらに関心・意欲を高めるために一層の連携強化が必要です。

②大学における内部進学者の優遇措置

内部進学者に対する優遇措置は大学で検討中であり、次年度の学生募集には、入学金の減免等具体的な措置が取られる見込みです。

③短大への進学者拡大策

模擬授業のほか、短大における外部講師による講演などに高校生を参加させ、短大への関心を高めました。短大への内部進学者は106名に達し、高短の連携は着実に実を結びつつあります。次年度より介護福祉学科はライフデザイン総合学科の中に総合福祉コースとして再編成されるので、高校から多くの志願者が出るよう勧めていきます。

(4) 生徒募集対策の強化

①本校の教育内容の特色と魅力の再認識、その効果的な広報活動

平成23年度入試では、定員375名のところ468名の新入学生を受入れることができました。募集活動に一定の成果があったと評価できますが、改善する余地はまだまだあります。学習と生活の基礎・基本の徹底習得や個性を尊重した多種多様な教育活動など、本校の教育内容の特色や魅力を明確に強調した学校案内の作成に向けて改訂を一部進めましたが、次年度以降もさらに改善を進めていきます。

同様に説明会におけるプレゼンテーションの内容も簡潔・明瞭でインパクトのあるものに改善していきます。

②新入生情報の整理と入学後の活動および成長過程の把握

入学時のデータと卒業時のデータをつないで生徒の成長過程を検証する作業は進めつつありますが、データの照合・統合が出来ていない部分もあり、目標を十分には達成できてはいません。検証は教育改善にも役立てるものであり、追跡調査の実現を一層図っていきます。

(5) 部活動の強化

①部活動に係わる人的・物的整備の充実

若い教員が新たに採用されクラブ顧問としても活躍が期待されるところです。22年度は吹奏楽部、バレーボール部など全国大会に出場したクラブもあり、部活動は体育・文化部とともに全体にその勢いを盛り返しつつあります。ベテランと若手顧問の連携や、今後顧問の世代交代が順調に推移することが望まれます。施設面では多数の部が伸び伸びと活動できる場所の確保に努めていきます。

②文武両道と人間形成を目指す部活動

クラブ活動本来の教育的意義を基本にすえて指導することが大切です。文武両道をめざし、部活動を通した人間形成を目指しつつ、そのうえでクラブの活動実績があがってはじめて部活動の成果といえます。その成果は確実に現れつつあり、部員の中には他の範となる生徒も現れつつあります。

(6) 新しい国際クラスの開設

①新クラスの開設と入学者

国際教育・英語教育の必要性はますます高まっており、そのニーズに応じて従来の6年一貫 APEX コースを再編成して高校からの国際 APEX クラスを開設しました。教育内容や留学プログラムは優れたものと自負しているが、入学者は募集人員に達しませんでしたので、次年度に向けて一層の募集強化を図っていきます。

(7) 中高6年一貫コースの受入れ準備

①6年一貫コースの特色と評価

1期生は学習・活動・社会人による講座など充実した中学生生活をスタートさせました。高校では1期生の取り組み状況を、関心をもって見守りながら高校段階での受入れ準備を進めています。

これらの生徒が中学3年になる段階では高校の教員が積極的に協力できるよう、また高校段階の学習・進路指導等について万全の受入れ体制の整備を進めています。

②募集・広報の見直し

22年度は実施途中段階での募集活動でしたが、次年度は1年間の具体的な取り組みと成果をもとに一層効果的な募集活動を行うことができます。募集定員を確保できるよう活動を進めていきます。

中学校

(1) 基本的な生活習慣の育成

基本的な生活習慣の育成については目標をほぼ達成出来ました。

この項目はさらなる充実を目指しますが、教員自らが範を示すことが不可欠です。また、不登校生徒に対する支援は今後も解決すべき課題が少なからずあると認識しています。

①挨拶 100%運動

生徒会活動や校門指導・朝終礼・授業時など、年間を通して挨拶の指導に力を注ぎました。

②時間厳守

ノーチャイム、5分前集合の徹底、正味50分授業の実施、読書タイム時の教員による巡回などを行いました。

③欠席・遅刻の根絶

個人面談や保護者との連携、家庭訪問などを行い、規則正しい生活の指導に重点を置き指導しました。

④美しい環境作り

個々の身辺整理・清掃の徹底・教員の監督徹底で、落ち着いたきれいな環境作りに努めました。校務職員の力添えも大きく達成度は高いと考えています。また、落ちているゴミを拾う等より一層の意識の向上に努めていきます。

⑤不登校生徒の支援

心身症や発達障害などによる不登校、教室に入ることのできない生徒いる現状を踏まえ、生徒相談係を中心に学年団、学園の臨床心理研究所（ICP）、保健室、保護者との連携・支援の強化を図りました。また、保護者等に対する研修会や相談会を実施しました。

(2) 学力の習得、進学実績向上

例年通りの達成ではありましたが一層の努力が必要と考えます。

特に、遅進生徒へのサポートに関しては放課後の補習時間を確保すること、自己研鑽の奨励については十分な報告とその成果をいかに共有していくか、研究授業の実施については授業など校務との兼ね合いの中で時間を見いだしていくことが必要です。

①分かりやすい授業と創意工夫

教員個々の十分な教材研究、教科間及び教科内での連携を強化しました。授業見学の奨励やプロジェクターを使つての視覚に訴える授業など実施しました。また、教材・サブ教材の精選など意欲的に取り組みました。研修会や研究会への参加も奨励し、積極的に研修や勉強会に参加しました。

②コース別の特色の発揮

□英数コース

勉強とクラブの両立に主眼をおいています。各種講習や習熟度別授業でその特色を出すことに努めました。

□英数発展コース

授業の進度と深度に重点を置き、各種講習や習熟度別授業、土曜日午後の授業などを実施しました。

□6年一貫コース

選抜・進学に分かれての少数かつ習熟度別授業を実施しました。また、社会人による10回の講演会、春・夏の勉強合宿、授業日数増、放課後の自学自習（夜7時まで）など生徒も教員も積極的に取り組みました。

③進学実績の向上

例年通りの進学実績を挙げることが出来ました。高校無償化に伴いやや私学志向が強くなったと考えられます。今後の課題として、

- ・今年度から新設の公立高校の文理学科（進学実績校10校）対策
- ・難関私立高校対策の強化
- ・内部進学数の増加対策

があります。

本年度進学実績は以下の通りです。

- 私学：内部進学49、慶応1、立命系4、近大附属6、清風3、同志社7、
関大12、明星7、四天王寺3、京都女子6、奈良帝塚山9など
□国・公立：教育大平野2、天王寺1、大手前10、四條畷13、高津2、
寝屋川3、市立東7など

④習熟度別授業の実施

英数コースは3年生で国・数・英の3教科、1・2年生で国・数の2教科で実施しました。すべての生徒が理解できるよう丁寧に指導しました。一層効果を上げるためには、より少人数体制を取ることが今後の課題です。
6年一貫コースは、国・数・理・社・英の5教科で選抜・進学に分けての授業を展開しました。

⑤遅進生徒へのサポート

休憩時や放課後の指名補習、再テスト実施などできめ細かく指導しました。また、担任による日直面談、年度末の校長などによる成績不振者面談で叱咤激励しています。ただし、放課後には教員はクラブ指導などがあり、物理的にも放課後の補習時間が取りづらい状況を抱えています。

⑥自己研鑽の奨励

各種校外での研修会・研究会に参加、スキルアップに努めましたが、まだ不十分と考えています。また、研修の成果をいかに共有するかが課題です。

⑦研究授業の実施

教科内及び教科を越えての研究授業を実施することを考えましたが十分には実現出来ませんでした。ただし、個人的に他の授業見学をする教員が増えました。次年度の課題も見えてきました。

(3) 高校・小学校との連携強化

例年並みの達成度といえます。小学校に対しては、教員同士の様々な交流はもちろんのこと、説明会や相談窓口の開催のみならず公開授業や体験入学、社会人講演会の案内など、児童・保護者を巻き込んでのアピールが必要であると考えます。

高校に対しては6年一貫コースの成果が待たれますが、大学進学実績やクラブ活動での繋がりに力を入れていきます。特に6年一貫コースの中学3年から高校段階でのシラバスの検討・充実、担当教員・大学受験対策などに取り組んでいます。

①小学校との連携

内部進学増に向けて、児童・保護者への説明会や相談窓口を設けました。また、教科指導の一部を中学校教員で担当しました。

授業公開や体験入学の導入など児童・教員の交流が今後必要と考えています。

②高校との連携

内部進学指導に力を注ぎました。大学進学実績やクラブ戦績でより繋がるべく努力していきます。APEXコースを廃止したため進学者数が減りました。今後は、6年一貫コースを柱により内部進学が増えるよう、綿密に連携していきます。

(4) 心身の鍛練、好ましい人間関係の育成

順調に推移しています。クラブ活動の活性化の問題は、全体的に文化系入部の生徒が増えたこと及び男子生徒の在籍数が減少したことです。クラブの見直しが必要な時期が来る懸念があります。

また、学校行事については各行事の目的を明確化し、情性にならないことに留意していきます。なお、例年の3年生修学旅行は東日本大震災のため、北海道に変更しほぼ例年と同時期に実施します。

①クラブ活動の活性化

活動を通しての技術向上・体力向上・人間関係・礼儀・忍耐力などの育成に力を注ぎました。活動時間や場所の確保、顧問の時間確保など課題は少なくありません。

②多彩な学校行事

体育会・文化祭・宿泊研修・修学旅行・耐寒オリエンテーリング・地下鉄オリエンテーリングなど多彩な行事を通して、様々な体験・経験をさせています。それぞれの行事の目的を再確認しました。

(5) 6年一貫コースの育成

専属教員5名が中心になって定められたシラバスに懸命に取り組んでいます。達成度の評価は難しい面もありますが順調に推移していると考えています。

ただし、予想されたことではありあますが、第1期生27名（内2名が転校）、第2期生37名と募集定員を下回っています。大切に育てると共に募集活動に力を注ぎます。シラバスの検討・充実、高校進学時の6年一貫コースの編入の問題、3年コースとの生徒・教員の交流及び相互理解の問題等に取り組んでまいります。

①自分を知る

社会人講師による講演会、見学会を計10回実施しました。様々な分野の社会人の方々の講演を聴き、視野・見聞を広め将来の自分の夢に繋げることが目的です。特に、大阪大学医学部附属病院副院長の吉川教授に当コースのスーパーアドバイザーに就任いただき多くの助言や講演を実施していただきました。

②基本的生活習慣

登校から下校までの学校生活の基本的なリズムを習慣化し、仲間意識を育みました。

③コミュニケーション力

激しく変化する国際化に対応するため、自己表現と他者理解のためのプレゼンテーション力を育てました。

④確かな学力の習得

進学・選抜に分けての主要5教科の授業を実施しています。また、2時間連続授業や自分プロジェクトの時間を設けると共に、1日完結型を目標に19時まで自学自習で学習しています。

(6) 入試制度募集活動の見直しと課題

やや志願者が減少しましたが健闘したと評価しています。ただし、次年度に向けて、続く不況、拍車がかかる少子化を念頭に置きその検討が急務です。

募集定員約190名のところ出願総数217名（一次197名、二次20名）と昨年度に比べやや減少しましたが入学数184名を確保出来ました。

ただし、3年コースは定員を確保出来ました。6年コースが定員を充足できませんでした。

①入試制度

日程・試験科目・転科制度・出願期間・合否判定などを再確認し、6年一貫コースの新設に伴い入試制度全般について、大幅に変更しましたが、その是非について今後検討し必要な改定を行います。

- ・入試を1次試験1回、2次試験2回に戻す。
- ・3年コース、6年コースの試験問題を同一とする。
- ・入試得点により6年コースから3年コースへの転科を認める。

②募集活動

入試説明会・プレテスト・塾訪問・パンフ・ポスター等募集活動について再確認しました。

- ・学校内外の説明会の参加人数は例年より多増加しました。
- ・2回のプレテスト受験者もほぼ例年並みでした。
- ・塾訪問も訪問塾数及びその範囲も拡大しました。
- ・結果的には、志願者数は昨年より減少しました。(▲16名)

なお、次年度に向けて検討課題は以下の通りです。

- ・入試資料などの完成の前倒し
- ・入試説明会の内容の見直し
- ・塾訪問の在り方について検討と近隣塾の訪問強化
- ・プレテストの問題の内容検討
- ・公開授業やクラブ体験などの実施の検討
- ・2次入試の日程の再検討

■ 小学校

(1) 環境・設備の充実

①教材園外壁の整備

教材園と北側の一般道路との塀が低いため、不審者等が簡単に侵入する危険があります。ロープを張り対応しましたが、来年度もう一度検討し、安全面をさらに強化します。

②トイレ環境美化

老朽化した2・3階のトイレを改装し、洗面所をトイレ外に出すことで、以前に比べて歯磨き指導が容易になりました。

③特別教室美化

集会室舞台に暗幕をつけたことで、劇発表会の場面転換や準備などがスムーズに行えるようになりました。

④プールの修理

老朽化したプールを修理、再塗装することで、漏水が止まり、無駄な経費を削減することができるようになりました。また、プール周辺も明るい雰囲気になりました。

(2) 規律遵守・意識レベル向上

①言葉遣い

教職員が正しい言葉づかいを心がけることにより、児童の意識が向上しました。引き続き重点的に指導します。

②整理整頓

音楽や体育などの授業で教室を離れる時、持ち物を出しっぱなしにしたり着替えた服をきちんとたためなかったりする児童が見受けられましたが、継続的な指導によってかなり改善されました。引き続き指導します。

③交通機関でのマナー

登下校中の電車・バス内で、一部児童が他の乗客に迷惑をかけることがありました。個別に指導し、譲り合う意識を深めました。また、地域ごとに教員が分かれ、それぞれの交通事情にあった登下校指導を年間数回行うことで、地域集団への帰属意識を高めました。

④挨拶励行

毎朝、駅前と玄関に職員が立ち挨拶を励行することで、「おはよう」「さようなら」「ありがとうございます」の声が大きくなりました。相手の顔を見て挨拶することを、引き続き指導します。

⑤携帯電話のマナー

携帯電話等でのマナー指導や携帯電話使用によるトラブル回避を目的とした学校集会を開き、指導を徹底しました。「携帯電話のルール」についての手紙を保護者に配布し、家庭での協力をあおぎました。

(3) 教育レベルの向上

①国語科教育

ワークシートやノートを使い「書いて考える」「考えを書く」指導を充実させました。また、国語科だけでなく他教科でも横断的に「言語活動の充実」を念頭に置いた教育を模索、実践しました。

②算数科教育

算数的思考力の向上にどのような学習活動が寄与するのかを研究し、授業内容を充実させました。

③社会科教育

各単元のまとめとして行う「発展的な学習」の内容をより効果的なものにするため、研究を進めました。

④研究授業

全国に向けた公開研究会と校内研究授業を軸にして、教員の技術向上と研究の充実を図りました。

⑤課外教室

できるだけ保護者の要望に応えるため、時間帯や受講人数などのばらつきを減らすように計画を改変しました。

(4) 中学・幼稚園との連携強化

①内部進学 の推進

入試終了後、内部附属幼稚園と小学校間で連絡会をひらき、入試問題を開示、合格基準を説明しました。

内部学園中学校への受験について、合格者の条件を確認するために小学校・中学校間で数回連絡会を開き、説明をしました。

(5) 募集広報活動の充実

幼稚園保護者が、本校の教育内容をよりよく知った上で入学を決定できるように、内外部幼稚園保護者向けの塾説明会を実施しました。

■ 幼稚園

（１）正課改革への取り組み

ヨコミネ式保育を採用して３年目となりました。本年は昨年以上に「全員が出来る」保育に留意し、３学期の発表会でその集大成を保護者に披露するとともに読み書き計算、体操、ピアノのレベルアップのため教職員一同が取り組みました。

また、昨年度に引き続き、夏休み期間中も希望者による通常保育を実施しました。

（２）課外教室への取り組み

保護者から要望の多い「美術教室（アートクラブ）」を年長児対象に、新たに開講し、多数の受講を得ました。この教室は学園短大保育学科の美術教室の協力を得て実施できました。

（３）預かり保育の活性化

預かり保育は異年齢交流の教育の場と位置づけ、出来るだけ自由に、のびのびと過ごすこととしました。「子どもは子どもから学ぶ」をより一層実現できる場として機能しました。毎回、参加者も１００名を超え、保護者の支持も得ていると考えます。

（４）教職員の保育力向上

①研修会への参加

毎月１日（終日）のヨコミネ式保育法の研修、毎週２回（終日）、コスモスポーツの幼児体操の専門家による実践指導を教職員が受講しています。

また、学園幼稚園に幼児教育の専門家を招き、現場での指導を受け、実践に則した内容の学習を重ねました。

この研修以外にも外部で開催されるセミナーに適宜積極的に参加し、これらを生かすための園内研修に努めました。

②職員会議、学年会議等での研鑽

「全員が出来る」ようになることを教職員全員の目標として、出来ない子をどうすればできるようになるか教職員がクラスや学年の枠を超え常に広い範囲で子どもをとらえる事にも力を注ぎました。

（５）園児募集活動・広報活動の見直し

教育は中身が一番との認識の下、内部者による口コミを重視した広報戦略を昨年に引き続き取りました。

①毎月の参観の開催

そのためにはまず、在園児の保護者（両親、祖父母等）に保育を頻繁に見てもらうため、参観も実施しました。

②通常保育の撮影写真のインターネットによる閲覧

通常保育の様子を撮影し、保護者がインターネットによる閲覧を可能としました。（ユーザＩＤ/パスワード等によるセキュリティ対策実施）

③外部見学会の開催

通常保育の外部向け見学会を概ね毎月開催し、入園希望者等に保育のそのままの様子を見学してもらい、保育内容の理解を深めていただく機会を多く設けました。

④プレスクール（2歳児親子教室）の重視

2歳児より幼稚園との接点を持ってもらい、入園につなげることと入園時に幼稚園での集団生活に早く慣れることからプレスクールを重視した対応をとりました。

プレスクール生には幼稚園と接する機会を多数持つてもらうための回数を増やし、幼稚園行事、講演会の参加勧奨を行いました。幼稚園教諭も常時プレスクールに入り、親子とのコミュニケーションを重視しました。

また、学園アンプレッセ（学園新聞）や毎月の園だよりによりその月の保育や行事等に理解を深めていただく事につとめました。

この結果プレスクール生130名中76名の入園となりました。

（6）衛生管理の充実

昨年度に引き続き、インフルエンザ等の感染症の流行を阻止するために以下のことを実施しました。（主なものを掲載）

- ①職員、園児の手洗い、うがい、消毒の励行。
- ②園だよりの活用等による保護者への予防策の周知徹底。
- ③来訪者に対する消毒液の利用。

3. 平成22年度決算の概要

平成22年度決算の概要を前年決算との対比で、以下の通り説明します。

(1) 消費収入について

① 学生生徒納付金

高等学校、中学校、幼稚園の入学者・入園者数の減少により入学金収入は減少しましたが、短期大学、高等学校の在籍学生数・生徒数の増加等により約36百万円の増加となりました。

② 補助金

国庫補助金は施設設備補助金（三次元動作解析システム）が24百万円あったこと等により34百万円増加しました。一方、地方公共団体補助金は高等学校の生徒数増加等により約20百万円増加しましたが、耐震補強工事の補助金収入が無くなったため、全体として36百万円の減少となりました。

③ 資産運用・売却収入

運用資産の積み上げ、利ザヤの拡大により22百万円の増加となりました。

④ 雑収入

退職金財団の返還金が7百万円減少しました。

⑤ 基本金組み入れ

短期大学、高等学校のパソコン教室のパソコン更改、高等学校東館の空調設備更新、総合ホールのエレベーター設置等により110百万円の組み入れを行いました。

(2) 消費支出について

① 人件費

中高一貫コースの教員5名増員、クラブ手当新設、定昇、福利厚生費増等の要因により51百万円増加しました。

② 教育研究経費

吹奏楽部、剣道部の全国大会遠征による旅費交通費、高等学校・中学校の奨学金は増加しましたが、教育関係のシステム投資、減価償却費等が減少したため、教育研究費全体としては44百万円減少しました。

③ 管理経費

消耗品費、広報費、業務委託費等が減少し管理経費全体として27百万円減少しました。

④ 資産処分損

教育研究用機器備品の処分損7百万円を計上しました。

以上より、平成22年度の消費収入差額は18百万円の支出超過となりました。

22 年 度 消 費 収 支 計 算 書

平成22年 4月31日 から

平成23年 3月31日 まで

1.消費収支の予算比較

(単位 千円)

消 費 収 入 の 部		22年度決算	22年度2次補正	差 異	21年度決算	差 異
科 目		(E)	(F)	(E) - (F)	(G)	(E) - (G)
1	学生生徒等納付金	2,417,414	2,553,380	△ 135,966	2,381,698	35,716
2	授業料	2,044,608	2,177,000	△ 132,392	2,013,173	31,435
3	入学金	265,480	265,480	0	272,700	△ 7,220
4	実験実習料	76,726	80,300	△ 3,574	75,275	1,451
5	施設設備資金	30,600	30,600	0	20,550	10,050
6	手数料	52,281	52,500	△ 219	53,528	△ 1,247
7	寄付金	17,951	16,000	1,951	16,940	1,011
8	補助金	936,547	785,956	150,591	972,628	△ 36,081
9	国庫補助金	131,690	125,468	6,222	97,982	33,708
10	地方公共団体補助金	804,857	660,488	144,369	874,646	△ 69,789
11	資産運用収入	85,348	82,600	2,748	59,737	25,611
12	資産売却差額	△ 396	△ 400	4	3,182	△ 3,578
13	事業収入	67,906	67,500	406	67,079	827
14	雑収入	56,695	54,200	2,495	63,828	△ 7,133
15	帰属収入合計 (A)	3,633,746	3,611,736	22,010	3,618,620	15,126
16	基本金組入額合計	△ 110,258	25,900	△ 136,158	△ 302,825	192,567
17	消費収入の部合計 (B)	3,523,488	3,637,636	△ 114,148	3,315,795	207,693

消 費 支 出 の 部		22年度決算	22年度2次補正	差 異	21年度決算	差 異
科 目		(E)	(F)	(E) - (F)	(G)	(E) - (G)
20	人件費	2,350,519	2,353,763	△ 3,244	2,299,087	51,432
21	教員人件費	1,940,845	1,942,870	△ 2,025	1,887,513	53,332
22	職員人件費	306,493	307,640	△ 1,147	296,411	10,082
23	役員報酬	18,241	18,313	△ 72	18,217	24
24	退職金	40,498	40,498	0	49,889	△ 9,391
25	退職給与引当金繰入額	44,442	44,442	0	47,057	△ 2,615
26	教育研究経費	998,460	1,016,785	△ 18,325	1,042,753	△ 44,293
27	(うち、減価償却額)	451,620	455,000	△ 3,380	465,190	△ 13,570
28	管理経費	184,627	193,697	△ 9,070	211,433	△ 26,806
29	(うち、減価償却額)	13,699	13,900	△ 201	10,136	3,563
30	経常支出の部合計 (C)	3,533,606	3,564,245	△ 30,639	3,553,273	△ 19,667
31	資産処分差額	7,268	6,900	368	3,538	3,730
32	徴収不能引当金繰入額	978	900	78	2,111	△ 1,133
33	消費支出の部合計 (D)	3,541,852	3,572,045	△ 30,193	3,558,922	△ 17,070
34	当年度消費収入超過額 (B)-(D)	△ 18,364	65,591		△ 243,127	

40	帰属収入-消費支出 (A) - (D)	91,894	39,691	52,203	59,698	32,196
41	帰属収入-経常支出 (A) - (C)	100,140	47,491	52,649	65,347	34,793
42	減価償却費・資産処分差額等 差引前収支	565,459	516,391	49,068	540,673	24,786

貸借対照表

平成23年 3月31日

(単位 円)

[資産の部]			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	11,925,717,723	11,992,404,890	△ 66,687,167
有形固定資産	8,432,783,094	8,701,780,297	△ 268,997,203
土地	364,003,596	364,003,596	0
建物	7,160,946,867	7,384,112,733	△ 223,165,866
構築物	369,838,344	401,095,758	△ 31,257,414
教育研究用機器備品	284,259,147	307,313,126	△ 23,053,979
その他の機器備品	37,088,185	30,609,358	6,478,827
図書	216,601,190	214,560,735	2,040,455
車輛	45,765	84,991	△ 39,226
その他の固定資産	3,492,934,629	3,290,624,593	202,310,036
有価証券	2,858,050,144	2,652,107,726	205,942,418
退職給与引当特定資産	584,703,189	588,535,571	△ 3,832,382
保険積立金	49,981,296	49,981,296	0
敷金・保証金	200,000	0	200,000
流動資産	2,146,635,909	2,050,780,057	95,855,852
現金預金	960,753,757	1,513,038,479	△ 552,284,722
未収入金	93,416,965	164,470,894	△ 71,053,929
貯蔵品	116,920	124,390	△ 7,470
有価証券	1,020,077,899	297,247,521	722,830,378
前払金	10,841,848	9,626,933	1,214,915
立替金	312,616	212,600	100,016
仮払金	2,763,000	5,997,500	△ 3,234,500
修学旅行費預り預金	58,352,904	60,061,740	△ 1,708,836
資産の部合計	14,072,353,632	14,043,184,947	29,168,685

[負債の部]			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	584,703,189	588,535,571	△ 3,832,382
退職給与引当金	584,703,189	588,535,571	△ 3,832,382
流動負債	694,760,354	753,653,564	△ 58,893,210
未払金	127,362,907	203,315,456	△ 75,952,549
前受金	464,845,220	451,749,490	13,095,730
預り金	43,960,347	38,526,878	5,433,469
修学旅行費預り金	58,591,880	60,061,740	△ 1,469,860
負債の部合計	1,279,463,543	1,342,189,135	△ 62,725,592

[基本金の部]			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	14,921,644,654	14,811,386,871	110,257,783
第1号基本金	14,690,644,654	14,580,386,871	110,257,783
第4号基本金	231,000,000	231,000,000	0
基本金の部合計	14,921,644,654	14,811,386,871	110,257,783

[消費収支差額の部]			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収支超過額	△ 2,128,754,565	△ 2,110,391,059	△ 18,363,506
消費収支差額の部合計	△ 2,128,754,565	△ 2,110,391,059	△ 18,363,506

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債・基本金・消費収支差額の部合計	14,072,353,632	14,043,184,947	29,168,685



学校
法人 **四條畷学園**